




2021-22 三春ロータリークラブ テーマ  
わくわく・ドキドキの三春ロータリー

Rotary  Program

1. 開会点鐘
2. ロータリーソング「奉仕の理想」
3. 四つのテストの唱和
4. 会長挨拶
5. 各委員会報告・その他連絡事項
6. 友の見どころ(2月号)  
山口 進さん
7. 会員卓話  
福原 義守さん
8. 閉会点鐘

令和4年2月17日 (木) 12:30～ 場所：割烹 八文字屋

## 友の見どころ・会員卓話例会

### 会長挨拶 山口 晋司

皆さまこんにちは。コロナはもう飽きるほど経済を衰退させており「安全最優先」ではありますが、どうにかならないかと思えます。安全ばかり考えていると経済が動きません。。経済、お金と物と人の行き来です。いくら立派な事を唱えても人の動きと物とお金の動きが無ければ日本は成り立って行きません。全てを面倒みってくれるほど日本はおめでたい国ではありません。

仕事をしている現場で作業着は多々ありますが、ファッションセンスも変わりつつあります。

今、作業着等を販売している「ワークマン」は女性にも大人気です。品質や値段はもちろんですが、センスが女性の支持を受けていると思います。作業着＝仕事着ですので、かゆい所に手がとどく・・・普通の服では考えもつかない部分にポケットがあつたりと、とにかく凄いです。僕が今着ている服がそうで動きやすいし、保温・保湿性も優れていて最高の服です。

ワークマンだけではなく、ホームセンター等でも作業着コーナーはいっぱいありますので、ぜひご覧になってみてはいかがでしょうか？

人に会ったりする場合は「礼儀」として普通のスーツ姿にもなりますが、パソコン作業など没頭している時は、このスタイルが僕には一番合ってます。

普段着ている服なども、少し考えを変えると素敵な物に出会えます。



 友の見どころ 山口 進さん**横書き P.4** シェカール・メータRI会長

実践的かつ行動志向のロータリー奉仕デーのイベントを計画し、開催するよう、全クラブに呼びかけました。2月23日はロータリーの創立記念日です。  
「皆が一人を入会させよう」で目覚ましい成果が得られていることを嬉しく思います。

**P.6**

1905年2月23日にシカゴロータリークラブが誕生しました。今ではロータリー200以上の国と地域に広がり、クラブ数37,049、会員総数1,201,314人に達しています。  
ロータリーとは職業倫理を重んじる実業人、専門職業人の集まりなのです。  
現在、国内でのクラブ数は2,224、会員数84,959人となっております。

**P.7** ロータリー青少年交換

国際理解と親善の精神を育み、平和を推進するため、15-19歳の青少年に、外国での異文化体験の機会を提供するロータリーのプログラム。言語や文化を学びながら、海外に友人を作り、世界市民としての自覚を養う。  
長期交換(1年)、短期交換(数日-数か月間)の2種類がある。

**P.8~P.9** 青少年交換の物語

来日したオーストラリアのドナルド・ファーカー氏(ドン)は白河RC大木代吉会員の令嬢千恵子さんの心からの、親切に感激し、親善のために努力することを決意、帰国後も、各地で40数回にわたって「日本人の友情」について講演して回ったそうです。ロータリーの青少年交換は、未来の平和へとつながっているのです。

**P.11~P.13** 青少年交換学生が考える平和

1.あなたにとって平和とは何か、2.その実現に必要なものは。  
平和とは人々が平和のために頭を使わなくてもよいこと。  
その先の未来や生活のために力を注げることだと考えます。

**P.14~P.17** ロータリー研究会レポート

これまで入会への障害があった、または入会の勧誘をされなかった人達を仲間にする事です。ロータリーをささえるのはクラブです。地域社会を反映させることが事業にも有益であると理解しています。これはクラブにとっても有益なのです。また新会員の勧誘だけでなく、現会員についてもよく知り、対話をし、互いに尊敬の念を持った環境を作ることも大切です。

**P.18~P.21** ガバナーのロータリーモーメント

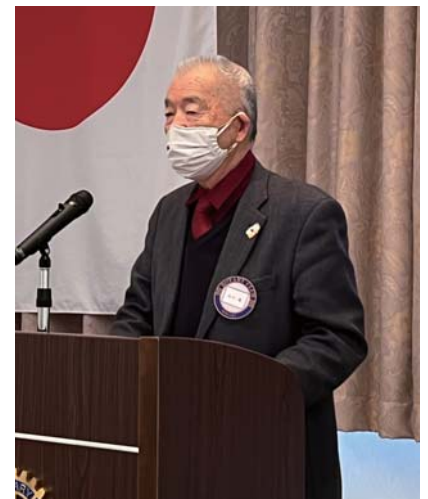
2530地区ガバナー志賀利彦氏の、「2021年1月7日、地区大会はユーチューブ配信と対面のハイブリッド開催で実現したのです。多くの会員に囲まれ、ロータリーの友情と寛容の精神に、改めて心からの謝意を表する次第です」

**P.29** ロータリアンの利益

{ロータリアンの{利益}とは、より立派で、より心の大きな人間となって、自分自身に対しても、同僚のロータリアンにたいしても、そして社会全体にたいしても、より素晴らしい奉仕を提供する機会が与えられることである}と述べているのです。要するに「人間性の向上」ですね。人生を豊かにする。

**縦組み P4~** CSR/SDGsの時代に考える職業奉仕

武井武雄の世界一長野県岡谷出身です。田舎、地方は都会に比べ質素かもしれないけれども、空気も澄み、田舎ならではのゆったりした穏やかな、平和な時間が流れます。地方の良さをもう少し、アピールしたほうが良いと思えます。人は皆平等なのだ、ということを強調しています。何気ない普通の日々、日常の平和が実は得難くて尊い、とゆうことも訴え掛けます。コロナ禍の時代になり、世界中の人々が改めて、穏やかな平和な世界について考え直した。





## P.9~P.12 この人を訪ねて

岩瀬浩介さん秋田東ローター十クラブサッカークラブの社長運は誰にでも訪れるものではありません。運を引き寄せられる力は、日頃の努力や姿勢だとみんなに言っています。

## P.13 パワハラに注意

職場において、嫌がらせをしたり身体的に、もしくは精神的な苦痛を興たりすることで、①優越的な関係を背景にした言動、②業務の適正な範囲を超えている、③就業環境を害する、という三つの要素を満たした場合にパワハラに認定される。パワハラには六つの型があり、1.身体的な攻撃、2.精神的な攻撃、3.人間関係からの切り離し、4.過大な要求、5.過小な要求、6. 個の侵害です。

## P.26

2530地区福島グローバルRCレデイロータリアンとの交流の集い。掲載。

 会員卓話 福原 義守さん

今日は、会員卓話ということで何を話そうかと考えたんですが、まず、来月一日で満68歳になります。帰国してから31年になります。今日の話は、日本に帰国する前にボリビアで見てきた先住民の話をしたと思います。

ボリビアの東部乾燥地帯、パラグアイ国との国境にピルコマヨ自然保護国立公園があります。この公園は、彼らの文化と自然保護が目的で設立された公園で、この公園を中心に移動しながらほぼ昔のままの生活を営む、原始的な先住民マタコス族の話をします。

若いころからこの地域の話は聞いていたので、日本に帰る前に見に行こうということで、友達と5人で行ってみました。その時の追想録です。

わたしたちがそこを訪れたのは、1990年6月10日、南半球の6月は季節的には冬にあたり、すでに乾季の時期に入り、夜には10℃くらいまで気温が下がります。最寄りの町ビリャモンテスでガイドを1人雇い2台のトヨタピックアップに分乗し6名でマタコスがいる自然保護国立公園へと向かいました。ホコリがもうもうと立ち上がる悪路を12時間走り続けて夕方4時に先住民たちがいる河原に到着しました。

自然公園内を流れるピルコマヨ河はアンデス山脈を源とした河で、この時期(5月中旬から8月末くらいまで)南部ブラジルとパラグアイの広大なジャングルの中の湿原で育った魚たちが産卵のために大群をなしアンデス山脈の清流を目指し遡上してきます。

先住民マタコス族は狩猟民族なので魚を捕るために、ピルコマヨ河を魚が遡上してくるこの時期だけ川沿いに住みます。大群となって産卵のために遡上する魚の種類は豊富で、型も大きく美味しい魚です。さて、予定通りに明るいうちに目的地に到着して人安堵したのを覚えています。

弓矢槍を持った狩猟民族に会うのですから「夜に到着するのはごめんだね」と、言いながら走り続けたのでほんとうにほっとしましたが、実際に対面するまでは大変不安でした。車を止めると、やはり、いきなり40~50名の先住民たちが車に集まってきました。「弓矢でいられるのではないかと、心配でしたが、ぜんぜん！人馴れしていて、にこやかで、通訳ガイドがその中の一人と話をすると、村長？ 酋長、にあいさつ、お土産に持ってきた、タバコとアルコールや飴玉で酋長は満面の笑みで大歓迎でした。タバコや酒のほかに絶対に喜ばれるものとして教わっていた薬品類を段ボール箱にいっぱい持っていきました。傷薬、消毒液、目薬、風邪薬、腹痛止め、ヨードチンキ、テラマイシンなどの抗生物質、傷テープ、包帯、バンドエイド、綿棒、アルコール原液、などです。

ガイドの通訳でケガしている人、熱がある人、具合が悪い人はいないかと伝えると、テントの周りに大勢の先住民が集まってきました。医者でもないのに診療活動を開始、目に炎症を持つ人が一番多かった、熱がある風邪気味の人、腹痛を訴える人、にわかドクター大活躍です。酋長がいうには、文明人が来るようになってから、いろいろな病気が出てきたそうである。翌朝、目が覚めてテントの外に出たら、とれたての魚が山積み。お医者様たちへのお礼です。さっそく朝ごはんは新鮮な魚の刺身とみそ汁、焼き魚おいしくいただきました。

この自然国立公園内で一般人は漁猟を厳しく禁じられていて釣ってもリリースする。持ち帰れない。厳しく監視されていた。  
・マタコス族の魚の捕り方と生活様式。



木の繊維で編んだ網を使って漁をする。大きいものは作れない。約2mの木の棒に樹皮の繊維で編んだ網を結わえて作った道具で魚の群れに入り救い上げる、きわめて原始的な狩猟法だが、さかなは川の色が変わるほどの大群なのでいとも簡単に捕れるのである。とった魚は、政府が許可した業者が買い付ける。(軍の監視員の下)

後は保存食として乾燥し干物を作る。魚のはらわたの油の部分だけを煮詰め魚油を作り革製の容器に詰めて保存する。魚漁ができるこの期間だけマタコス族は河原に建てた小屋とは言えないほど、簡易な夜露をしのぐだけの小屋で寝起きをします。大人も子供もほとんど上半身は裸で、土鍋も使っていましたが、ほとんどがアルミ製の鍋で煮炊きをしていました。刃物や斧は魚と物々交換しているようで普通に現地で使われているものと同じでした。文字は持たない、スペイン語が話せる者はいませんでした。

顔は日本人に似た顔をしていて、肌は日焼けした褐色で胃のような黒さではない。中には、日焼けした日本人くらいの肌の者もいた。子どものお尻には蒙古斑がありモンゴロイドだということがわかる。食事は決まった時間があるようには見えなかったが、家族単位(10名から15名)小屋の前に集まり一緒に食べていた。焼き魚、木の芽とイモ類を似たもの味付けは塩と木の芽(ハーブ)ハーブの香りが私には少しくつくておいしいとまでは言えない代物でした。

年上を敬い、秩序の在る暮らしをしているように見えた。わたしたちのトラックやテントの周りには、彼らにとってみればたいへん物珍しい興味のあるものばかりのはずだが、何一つ盗まれることもなかった。

1980年代頃から、南米では、先住民の文化を尊重し保存に努めようとする活動がおこり、どの国も保護区域を設け政府の保護管理が始まった。私たちがそこを訪れたころまでは、彼らは国境も関係なく生きているようにも見えたが、今はどうなっているだろう。自然に溶け込んで、自然を宝として暮らしていた彼らは、今どのような生活をしているのだろうか。

文明にむしばまれ、お金を得るため魚を捕っているのだろうか。・最近の写真をネットで探してみたら、みんな普通にTシャツなど着て、昔の様子ではない。私たちが訪問した頃が、彼らの生活が大きく変わる転換期だったかもしれない。原始的な暮らしを営んでいた本来のマタコス族にはもう会えないだろう。こども達の笑顔が今も変わらないことを願う。

もう一度訪問したいところの一つである。今も昔と変わらない自然を見ることができだろうか



5月末から8月にかけて、魚が産卵のために遡上する。遠くから見てもはっきりとわかるほど川の色が変わる。先住民たちは、魚が遡上してくると川に入り漁をする、この時期だけ川辺に暮らし漁をする。